数研『高等学校 化学基礎』（化基/709）観点別特色

（１）内容

化学基礎で必要とされる内容とともに，高学年化学の範囲に含まれる内容についても「発展」により適宜取り扱われており，上級学年への連繋がスムーズになされるように配慮されている。また，「参考」や「コラム」として本文の内容を深める事項が適宜挿入されており，関連する本文内容と絡めて自然に理解できるような構成となっている。特に高度な学習内容は，「巻末参考・発展」と題して巻末で扱い，必要に応じて扱うことで，理系進学者に対しても十分満足に指導できるように工夫されている。

巻末資料に配置された「思考学習」では，学習事項とのつながりを意識しながら，実験や資料について深く考察させられるように配慮されており，「思考力・判断力・表現力」を養う題材として活用できるように工夫されている。

「化学が拓く世界」では，日常生活と化学のつながりを豊富な事例とともに紹介しているほか，関連する職業に従事されている方のインタビュー記事が掲載されており，化学を学習する意義を感じられるように工夫されている。

「実験」は，授業時間内に実行しやすいように設定され，該当する内容を理解するのに最適なものが組まれている。また，化学の本質である「物質を扱う」という理念を容易に実行できるような工夫がされている。

さらに，「探究実験」では生徒が自ら探究的に実験に取り組むようすが先生と生徒の対話形式で紹介されており，生徒が日常生活の中で疑問をもち，解決する力を養えるように工夫されている。また，比較的安全かつ安易に行える実験が取り挙げられている点も十分に配慮がなされている。

巻末の「物質図録」には，化学基礎で登場する物質を中心に物質の名称や写真，色，状態，特徴，利用例が図鑑形式にまとめられている。授業中に物質を紹介する際に参照させやすいほか，生徒が自宅学習で使用する際にも参照しやすい位置に収録されており，「物質を知る」ということを容易に行えるように工夫されている。

書籍全体を通して，ページ下部の二次元コードから学習に役立つコンテンツを利用することができる。実験映像，例題の解説映像，アニメーション，学習内容の確認テスト，英文の和訳など多岐にわたる内容が利用できる。コンテンツは全部で137点用意されており，質・量ともに十分である。授業中に演示用資料として活用するほか，生徒が自宅学習で利用するなど，学習内容の理解をさらに深めることができるように配慮されている。

（２）構成・分量

最初に「化学の特徴」の章があり，探究の導入として中学校までの学習内容を交えつつ，先生と生徒の対話形式を用いて読みやすくまとめられている。また，巻末の実験に関する資料では，実験の基本的な操作や心構えだけでなく，一般的な注意事項，危険な薬品の取扱い，廃液の処理を扱い，生徒が実験を安全かつスムーズに行えるように配慮されている。実験に関する基本を抑えてあり，高校化学の学習につながるように工夫されている。

導入は「純物質と混合物」から開始され，中学校理科の既習事項を冒頭にまとめてあるため違和感なく連繋して学習できるようになっている。

各節の冒頭には身近な疑問や学習目標が掲げられており，生徒が見通しをもって学習を進める上で指標となるように配慮されている。また，各節の終わりには「節末チェック」として，その節で学んだ内容を生徒自身の言葉で説明させるしくみが設けられている。生徒一人一人の学習到達度が確認できるだけでなく，生徒どうしで説明しあうことで協同的に学びを行うことができるよう工夫がされている。

「問」が適時挿入され，段階を追って確認しながら先に進めるような構成となっている。また，数値計算では，「例題」に続く「類題」の問題が必ずセットになっていて，例題を理解すれば類題の問題が解けるような工夫がされている。演習問題の数も十分な量が盛り込まれている。さらに，「考」を付した問題ではやや思考力を問う問題が扱われており，さらに学びたい生徒への配慮がされている。

適当な箇所には「まとめ」が設けられ，適時それまで学習した内容の確認ができるようになっている。

巻末には問題の解答や解説がていねいに記載されており，生徒が自宅学習で問題に取り組んだときに，どこが分からなくてつまずいたのかが確認できるように配慮されている。

（３）表記・表現及び使用上の便宜

全体的に文章は読みやすく，生徒が自力で読んでも理解できるように，段階を追ってていねいに記述してある。また，筋道立てて理解をする上で必要な事項が十分に盛り込まれていて，例題や類題を通して確実に理解でき，定着にも十分な配慮がなされている。

重要事項や重要公式など太字や装飾により適切な表示が行われていて生徒の学習効果が上がるように工夫されている。

原子を示す場合，水素は水色，炭素は灰色，酸素は赤色というように，元素の色を統一した使い分けがなされている。このほか，酸を赤色，塩基を青色，あるいは，酸化を赤色，還元を青色，さらに電池では負極を赤色，正極を青色など，内容に応じて適切な色分けがなされている。しかも，過度な色使いがなく，カラーが学習内容の自然な理解に結びつくよう配慮されている。なお，色使いについては色弱者にも配慮されている。

化学において重要な物質や実験に関するカラー写真が豊富で，学習内容のイメージがつかみやすく，本文の理解が容易になるよう工夫されている。

その他，物質量の関係図を適所に入れたり，イオン化列をページ下部に掲載したりと，関係を理解することが重要となる箇所では，それが自然と身につくように配慮されている。

（４）その他

巻末資料編では，国際単位系（SI）の説明のほか，無機化合物の命名法，指数の取り扱い方，有効数字の扱い方などの有用な資料が掲載されている。

化学の写真では色が大切であるが，目に優しい適切な白色度の紙を使用し，実際の物質に近い色になるように注意して印刷されている。